

再評価調査

事業名	街路事業（都市計画道路 大阪岸和田南海線）			
所在地	和泉市太町、葛の葉町、王子町三丁目、王子町、鶴山台三丁目地内			
再評価理由	事業採択後 10 年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	和泉市域を南北に貫く幹線道路であり、大阪と和歌山を結ぶ主要幹線である主要地方道大阪和泉南線等の慢性的な交通混雑を緩和するものとして、道路新設するものである。		
	内容	延長 0.6 km（都市計画道路北信太駅前線～地区内 4 号計画道路） 幅員 22.0～27.5 m 道路区分 第 4 種第 1 級 4 車線道路		
	事業費	全体事業費：約 5.7 億円 うち投資済事業費：約 3.8 億円 （内訳）用地補償費約 4.2 億円 （内訳）用地補償費約 3.1 億円 （用地補償単価約 2.8 万円 / m ² ） 工事費等約 1.5 億円 工事費等約 7 億円 （工事費等単価約 2.5 万円 / m）		
	維持管理費	約 3.4 百万円 / 年（約 5.7 百万円 / km・年）		
	上位計画	大阪府交通道路マスタープラン 大阪府都市基盤整備中期計画（案）		
	関連事業			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	現時点での状況	分析
		事業採択年度：H8 事業着手年度：H8 完成予定年度：H14	事業採択年度：H8 事業着手年度：H8 完成予定年度：H20	
	進捗状況		用地： 83% 工事： 52%	（都）北信太駅前線から地区内 3 号計画道路までの区間について重点的に事業進捗を図っている。
	途中段階の整備効果発現状況	（都）北信太駅前線から地区内 3 号計画道路までの区間を先行整備し、整備効果を発現しながら事業推進に努める。		
事業進捗に関する課題				

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	現時点での状況	分析
		本路線は和泉市域の南北方向の交通混雑の緩和を図るため、順次整備をしており、本事業区間の整備により（都）北信太駅前線と主要地方道富田林泉大津線とが結ばれるネットワークが形成されることから、整備に着手した。	（周辺道路） 大阪和泉南線 （交通容量：約 11,020 台） 交通量 15,166 台（平成 6 年） 13,625 台（平成 9 年） 13,188 台（平成 11 年） 国道 26 号 （交通容量：約 55,340 台） 交通量 71,653 台（平成 6 年） 67,824 台（平成 9 年） 75,109 台（平成 11 年） 交通センサスより	依然として交通量が交通容量を超えており、交通混雑していることから、この緩和を図る必要がある。
	地元等の協力体制	和泉市域の南北方向の交通混雑の緩和を図るため、早期整備が望まれている。	依然として交通量が交通容量を超えており、交通混雑していることから、早期整備が望まれている。	平成 20 年度の完成に向け、引続き地元の協力を得て、事業推進に努める。

		計画時の想定	備考	現時点での状況（変更点）	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出することができなかったものの、本事業整備による事業効果が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な便益内容 走行時間の効果（走行時間の短縮） 走行経費の効果（時間短縮による走行経費の節減） 受益者 道路利用者 	<ul style="list-style-type: none"> $B / C = 2.83$ 総便益 B = 173.7 億円 総費用 C = 61.4 億円 算出根拠 費用便益分析マニュアル（国土交通省平成15年8月） 	本事業整備による事業効果が期待できる。
	その他の指標（代替指標）				
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 歩車道分離による歩行者、自転車の安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者など 地域住民、道路利用者 	変更点特になし	
	活力	<ul style="list-style-type: none"> 物流の効率化の支援 地域間交流連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者など 地域住民 	変更点特になし	
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> 十分な幅員が確保された歩道による快適性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者など 地域住民、道路利用者 	変更点特になし	
	その他				
自然環境等への影響と対策		<ul style="list-style-type: none"> 道路の整備により旅行速度が向上し、CO2の排出量が削減される。 植樹帯の設置により、緑の回復に努める。 		変更点特になし	
その他特記すべき事項					